市民生活課

人生100年時代のキャリアデザイン

男女共同参画エンパワメント講座

講師の話を熱心に聞く参加者

10月30日、庄原自治振興センターでMoritaキャリアプランニング代表の森田ひとみさんを講師に「人生100年時代のキャリアデザイン」と題して男女共同参画エンパワメント講座を開催しました。

「エンパワメント」とは、「力を付ける」という意味で、この講座では、庄原市女性団体連絡協議会との共催で、自分自身で課題を解決していく力や自信を身に付け、男女がさまざまな場面で共に参画し、活躍できる社会の実現を目指すことを目的としています。

参加者は、この講座で自分自身の過去を振り返りながら、ライフステージに応じたやりたいことに挑戦し、何歳でも生きがいと自信をもって生きていく方法について学びました。受講後には「とても元気が出た。これからの人生を充実させていきたい」と話しました。

危機管理課

地域の見守り活動強化に向けて

「地域における市と市内郵便局の協力に関する協定」に基づく見守り活動

郵便車両の前でステッカーを手渡し

10月27日から、東城地域郵便局の郵便車両・バイクへ「地域みまもり実施中」と記したステッカーを掲示し、郵便業務中に地域の見守り活動を行っています。

この取り組みは、6月に東城町で発生した痛ましい事件を受け、市と市内郵便局が締結している「地域における市と市内郵便局の協力に関する協定」に基づくもので、郵便車両へのステッカー掲示と併せて、事件が発生した田森自治振興区の各世帯に「監視強化地域」のステッカーが配布されました。

「少しでも地域住民の皆さんの不安を解消したい」と、日本郵便備北地区連絡会の尾原夏紀統括局長から田森自治振興区の名越和之会長へステッカーが手渡され、名越会長は「郵便局の車両を見るとほっとする。大変ありがたい」と感謝の言葉を伝えました。

農業振興課

乳牛のオリンピックに挑戦！

全日本ホルスタイン共進会

10年ぶりに「乳牛のオリンピック」と呼ばれる「全日本ホルスタイン共進会」が10月25・26日の2日間、北海道勇払郡安平町で開催されました。

この大会では、各都道府県を代表する乳牛（ホルスタイン種およびジャージー種）を集め、乳牛が健康で長く活躍するために求められる理想的な体型への改良度合いを比較・審査します。

広島県からは3頭が出品され、本市からは向田修実さん（高野町）が飼養する「フアインビユー セイバー サム」（ホルスタイン種）が出場しました。

向田さんの代表牛は第11部（Jサイア3歳クラス）に出品され、堂々とした雄姿を披露しましたが、惜しくも上位入賞には届きませんでした。

大会には、市内の酪農家や畜産を志す若手有志が牛の世話などのサポートに駆け付け、広島県チームが一丸となって取り組みました。

この大会を通じて酪農家同士の絆が深まり、また、若手農業者は貴重な経験と情熱を得ることができました。

本大会を通じて得られた経験や交流は、今後の地域酪農の発展にも生かされていきます。

向田さん（右から2人目）とサポートに駆け付けた若手農業者

堂々と入場する「フアインビユー セイバー サム」

農業振興課

市内の牛が大躍進！県畜産共進会で好成績

第101回広島県畜産共進会

10月21日、広島県三次家畜市場で、第101回広島県畜産共進会「種畜の部」が開催され、市内から32頭（肉用種19頭・乳用種13頭）の牛が出品されました。

肉用種種牛の第1区優秀賞4席には、永田豊秋さん（高野町）出品の「みねいとしげつる」、第2区優秀賞首席には下奥朋則さん（高野町）出品の「いとなつ2130」、第3区優秀賞首席には赤木一超さん（東城町）出品の「第3きよこ1の4」、第4区優秀賞4席には大迫一三さん（峰田町）出品の「かつかね18」が選ばれました。

また、乳用種種牛の未経産牛第1区優秀賞首席には和田慎吾さん（東城町）出品の「WDカネフアジヤガー ホームズ」、未経産牛第2区優秀賞2席には才木敏希さん（峰田町）出品の「ビゴラス DB ベルガモ」、経産牛第3区優秀賞首席には和田慎吾さん（東城町）出品の「ヒシヌマファーム ガバネス フォルティー」、経産牛第4区優秀賞2席には才木敏希さん（峰田町）出品の「ビゴラス ジエダイ ドラミ」が選ばれました。

なお、それぞれの優秀賞首席の中から選ばれる総合首席を、乳用種未経産牛では和田慎吾さん（東城町）出品の「WDカネフアジヤガー ホームズ」が獲得しました。

第101回を迎えた歴史ある共進会で、本市で生産された牛が総合首席をはじめ上位に多数入賞したことは、地域の改良の歩みを実感できる結果となり、これまでの取り組みが確かな成果として表れた共進会となりました。

乳用種未経産牛総合首席を獲得した和田さん

第3区優秀賞首席を獲得した赤木さん

Camera Report カメラレポート

●市内のイベントやまちの話題をお届けします。　行政管理課広報統計係　☎0824-73-1159／Fax0824-72-3322

食の大切さ学び、同世代と交流

企業の新人研修で高野・稲刈り体験・10/23　No.1

高野町岡大内の田んぼで、福山市の総合建設業を営む㈱松原組の新人社員11人が、稲刈りや食体験を行いました。

同社は「社員に安全･安心の美味しいお米を食べさせたい」と、社員食堂やレストランで使用する米を3年前から高野町の田んぼで、無肥料・無農薬にこだわり栽培しています。

この日は、栽培スタッフから、稲の刈り方、結束の仕方などを教わりながら、稲の手刈りに汗を流し、食の大切さを体感しました。

昼食は、羽釜で炊いたご飯のおにぎりや豚汁、ドライカレーのほか、地元の皆さんからいただいた高野りんごやジュース、漬物など、高野の味覚も満喫しました。

参加者は「職場を離れて同年代と交流でき、とてもリフレッシュできた」「高野の食がおいしかった」「これを機会にまた高野を訪れたい」と話しました。

同社は昨年度、企業版ふるさと納税で、高野地域の振興に役立ててほしいと1,000万円を寄付。下高自治振興区の草谷洋事務局長は「松原組の取り組みに感謝している。地域ぐるみの交流や、企業と地域の連携を深めて地域の活性化につなげたい」と農業体験を歓迎していました。

▲稲刈りを行う参加者

▲昼食のおにぎりを楽しむ参加者